2025 年 1 月 7 日

股関節撮影時の生殖腺遮蔽の見直しについて（声明）

日本医学放射線学会
日本放射線科専門医会・医会
日本放射線技術学会
日本診療放射線技師会

私たちは、放射線検査における患者の安全と効果的な医療を最優先に考え、医療の進化に伴った最新の検査技術を考慮しています。そこで、最近の国際的な提言や欧米諸国における生殖腺遮蔽の声明文を勘案し、生殖腺遮蔽を行わない方針について検討を重ねてきました[1-9]。この方針は、患者への十分な説明や情報提供を通じて医療の信頼性にも繋がると確信しています。

私たちは、最新の科学的根拠と国際的な動向に基づき、患者からの信頼維持と患者および医療従事者の利益を最大化することを目的として、生殖腺遮蔽の廃止を推進することと致します。

参考文献

1）NCRP Recommendations for Ending Routine Gonadal Shielding During Abdominal and Pelvic Radiography Jan 12,2021
2）AAPM Position Statement on the Use of Patient Gonadal and Fetal Shielding,(Policy No:- PP 32-A Policy Date:- 04/02/2019)
3）ASRT Statement on Fetal and Gonadal Shielding. Jan 12,2021
4）Guidance on using shielding on for diagnostic radiology applications. March 5,2020
5）ASMIRT Position Statement Gonadal Shielding,2020
6）竹井泰孝，江口佳孝，川浦稚代,他.　わが国の小児股関節撮影における生殖腺防護の継続中止に関する報告.　日本放射線技術学会雑誌 2022;78(12)：1497-1510
7）生殖腺（性腺）防護について考えるその 2（前編）日本診療放射線技師会雑誌. 2023;70(3):265-276
8）生殖腺（性腺）防護について考えるその 2（後編）日本診療放射線技師会雑誌. 2023;70(4):375-383
9）野副 沙季, 寺崎 圭, 中田 学.　女性の股関節 X 線撮影における生殖腺防護の有効性評価. 日本放射線技術学会雑誌 2022;78(11)：1314-1322

以上